

だれもが大切にされる

# インクルーシブ保育

— 共生社会に向けた保育の実践 —

小山 望 編著

堀 智晴・舟生直美・加藤和成・鈴木由歌・川俣瑞穂・鈴木仁美・渡邊美南  
新城優子・中鉢路子・松岡佳子・渡邊真伊・尾裕健二 共著（執筆順）

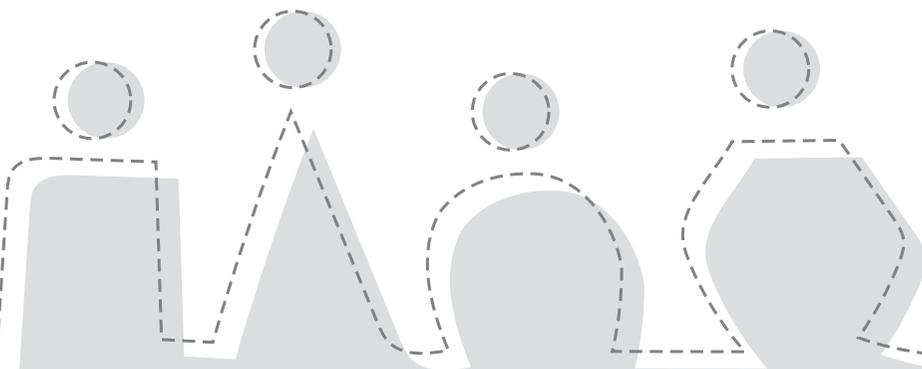
実践紹介園

葛飾こどもの園幼稚園（東京都）

愛隣幼稚園（千葉県）

愛の園ふちのべこども園（神奈川県）

幼保連携型認定こども園 聖愛園（大阪府）



建帛社  
KENPAKUSHA

## はじめに

编者として「はじめに」を記すにあたり、まず私自身のことから述べさせていただきます。障がいのある子どもとの出会いは、数十年前の大学院生のときに遡ります。当時大学院で障がい児・者心理学を専攻していて、障がいのある幼児を受け入れていた私立葛飾こどもの園幼稚園に週に一日働く機会を得ました。一般の幼稚園で障がいのある幼児を積極的に受け入れて統合保育をしていることに興味をもったのです。当時は、障がいのある幼児は障がい児の療育機関に通うことが一般的で、幼稚園・保育所で障がい児を受け入れて統合保育をすることは珍しかったのです。

この幼稚園には、障がいのある子どもと健常児が遊びを通じて自然に関わり合い、育ち合う環境がありました。子ども同士が遊びを通じて、仲間になっていく姿を見たのです。言葉の遅れがあっても、遊びを通じて認知や言葉の発達が促進され成長していくさまを目の当たりにしました。ときには子ども同士の思いが伝わらず、ぶつかったり、衝突したりしながらも、相手の存在に気づき、相手の気持ちを理解することがきっかけになっていくのです。そこで私が学んだことは、子どもは共に遊んだ仲間とのつながりの中で、心身ともに満たされ幼稚園で居場所ができるということです。そのとき幼児期の遊びの重要性に気づいたことが、やがてインクルーシブ保育を志す方向に向かうことになりました。

1994年6月、スペインのサラマンカ市でユネスコ（UNESCO：国連教育科学文化機関）とスペイン政府が開催した「特別なニーズ教育に関する世界会議」で採択された「サラマンカ声明」は、インクルーシブ教育のアプローチを推進するための世界各国の基本的政策の転換を検討するきっかけになっています。ユネスコの意図する教育は、障がいのあるなしで子どもを分けるのではなく、すべての子どもたちにとって効果的な学校をめざして、すべての子どもたちが一緒に学ぶべきと強調しているところです。この声明により、世界各国にインクルーシブ教育の方向性を示すことになりました。

地域社会において障がい者との共生を進めるためには、幼児期からのインクルーシブ保育を積極的に浸透させることが必要です。障がいのある子どもだけでなく、外国籍の子ども、セクシュアルマイノリティの子ども、貧困家庭の子どもなど、多様な特性を含むすべての子ども同士が相互に関わり合って、お互いに認め合う心を醸成することが大切なのです。幼児期から、小学校、中学校、高等学校、大学などの学校教育機関でインクルーシブ教育を進めることで、多様に寛容な社会を築くことができると信じています。

本書の企画趣旨は、幼児期からのインクルーシブ保育をさらに浸透させたいという编者の思いから生まれています。今回執筆いただいた、前述の葛飾こどもの園幼稚園をはじめとした、愛隣幼稚園、愛の園ふちのべこども園、聖愛園の各保育施設は、インクルーシブ保育の実践に積極的に取り組んでおり、日本保育学会の自主シンポジウムで数年にわたり、何度も実践を発表し、共に切磋琢磨してきました。2022年、2023年の日本保育学会では自主シンポジウムにシンポジストとして登壇していただきました。執筆いただいた園長や保育者の方々にはご多忙の中取り組んでいただき、そ

の労に感謝申し上げます。また、登場するすべての子どもたちにその遊びや活動からさまざまなことを学ばせていただき、明日の保育につながるエネルギーをいただきことに感謝申し上げます。インクルーシブ保育の実践に正解はありません。ここに登場する保育施設も日々ドラマが起こり、その都度、どうすることが子どものためによいのかを保育者同士が話し合い、情報を共有しながら進めており、まさに試行錯誤の連続なのです。

また執筆者の堀智晴氏は、インクルーシブ保育の実践研究の先達であり、師と仰ぐ存在です。堀氏の存在があったからこそ、インクルーシブ保育の研究に挑むことができたと思っています。

最後に建帛社編集部には企画から刊行まで親身にご相談にのっていただき感謝申し上げます。この励ましなしには、刊行はできなかったと思っています。

本書の内容についての責任はすべて編者にあります。読者からのさまざまなご意見をお待ち申し上げます。本書を手にとった読者がすべての子どもの輝きのためにインクルーシブ保育に関心をもたれ、挑戦したいと思うことを祈ってやみません。

2023年7月

編者 小山 望

# 目 次

## 第1章 インクルーシブ保育

1. 「障害者の権利に関する条約」とインクルーシブ教育…………… 1
2. インクルーシブ保育と統合保育のちがい…………… 1
  - (1) 統合保育とは…………… 1
  - (2) インクルーシブ保育とは—保育のパラダイムシフトの必要性—…………… 2
  - (3) インクルーシブ保育の実践方法…………… 3

## 第2章 インクルーシブ保育を創る—その方法と工夫—

1. みんなとちがう変わった子…………… 5
2. インクルーシブ保育を創る…………… 5
3. 子どもたちへの3つの願い…………… 6
4. インクルーシブ保育を創る4つの視点…………… 6

## 第3章 「成果重視型」の保育と「プロセス重視型」の保育

1. 見えた結果を評価する「成果重視型」の保育…………… 9
  - (1) 「成果重視型」の保育とは…………… 9
  - (2) 保育者が保育者の基準でクラスという単位の枠組みをつくってしまうこと…………… 10
2. 子どもの主体性を尊重し一人ひとりのプロセスをとらえる  
「プロセス重視型」の保育…………… 12
  - (1) 「プロセス重視型」の保育とは…………… 12
3. 今まで行ってきた自分自身の保育に対する意識を変えることの難しさ…………… 14
  - (1) 保育者の考えが先行してしまうこと…………… 14
  - (2) 一日の保育の流れを効率的に運んでしまおうとしてしまうこと…………… 16
  - (3) 「プロセス重視型」の保育の中で沸き起こる不安…………… 17

## 第4章 園での実践① 一人ひとりに向き合う

〈葛飾こどもの園幼稚園〉

園の概要…………… 21

1. インクルーシブ保育の工夫, プログラム…………… 23
  - (1) 一人の子どもを知るための保育, 環境づくり…………… 23
  - (2) さまざまな子どもたちの集団である異年齢保育…………… 25

(3) 保育者間やクラス間の連携と支え合い	26
(4) 保護者がつながる環境をつくる、考える	27
<b>2. インクルーシブ保育の事例—インクルーシブ保育を通して子どもとつながる</b>	<b>29</b>
<b>3. インクルーシブ保育を実践して</b>	<b>36</b>
(1) 療育的な関わりから始まった園として	36
(2) 人と人がつながる必要を改めて感じさせられている	36
(3) 周囲が気づき考え、社会が変わるために	37

## 第5章 園での実践② 自由で主体的なあそび

〈愛隣幼稚園〉

園の概要	39
<b>1. インクルーシブ保育の工夫、プログラム</b>	<b>40</b>
(1) 子どもの自由で主体的なあそびを中心とする保育	40
(2) どの子どもちがっていて、それをそのままいいといえる	42
<b>2. インクルーシブ保育の事例—言葉の問題から</b>	<b>47</b>
<b>3. さまざまな問題を抱えた保護者への支援</b>	<b>51</b>
<b>4. 保育者が抱える問題と支援</b>	<b>52</b>

## 第6章 園での実践③ 多職種協働の視点から

〈愛の園ふちのべこども園〉

園の概要	54
<b>1. インクルーシブ保育の工夫、プログラム</b>	<b>55</b>
(1) 多様な保育	55
(2) クラスで過ごすためのさまざまな工夫	56
(3) 専門職チーム	57
(4) ○○さん応援シート—個別の支援計画—	59
(5) 「親の会パレット」とパレットノート	59
(6) インクルーシブ保育と心理支援	61
(7) 地域とのつながり	62
<b>2. インクルーシブ保育の事例—自閉症の子ども</b>	<b>63</b>
<b>3. 保護者との関わり</b>	<b>65</b>
(1) 日々の関わりを通じた保護者支援	65
(2) 子育てみちくさ相談	68
<b>4. 保育者が抱える問題と支援・連携</b>	<b>69</b>
(1) 保育者同士の支え合い	69
(2) ケースカンファレンス	70

## 第7章 園での実践④ 障がい児共同保育

〈聖愛園〉

園の概要……………	73
1. インクルーシブ保育の工夫, プログラム……………	74
(1) 聖愛園が他の保育所, こども園とちがうところ……………	74
(2) 聖愛園のインクルーシブ保育の特徴……………	75
2. インクルーシブ保育の事例—たてわり保育の子どもたち, 保育者たちの姿…	78
3. インクルーシブな社会をめざして……………	86

## 第8章 インクルーシブ保育を進める

1. 4園の実践からみえてくる共通項……………	89
(1) 子どもの主体性を尊重した保育……………	89
(2) 一人ひとりの子どもを大切にす保育……………	89
(3) 自由遊び……………	89
(4) 保育者同士の連携……………	90
(5) 保護者との信頼関係……………	90
(6) 異年齢クラス……………	91
2. 正解のない, 試行錯誤の連続……………	91
索引……………	93

# 第1章

# インクルーシブ保育

## 1. 「障害者の権利に関する条約」とインクルーシブ教育

2006年の第61回国連総会で、「**障害者の権利に関する条約（障害者権利条約）**」が採択され、障がい者の人権尊重、社会参加が推進されることになりました。2014年には、日本もこの条約を批准しました。条約の批准を前に2011年に「**障害者基本法**」が大幅に改正され、2011年に「**障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律（略称：障害者虐待防止法）**」、2013年に「**全ての国民が、障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に資すること**」が銘記された「**障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（略称：障害者差別解消法）**」の2法が公布され、さらに「**障害者差別解消法**」は、障がいのある人に**合理的配慮を義務付ける改正**が2021年になされました。

障害者権利条約の第24条には、インクルーシブ教育を受ける権利の保障が謳われています。そこにある「**inclusive education system（インクルーシブ教育システム）**」とは、障がいのある者と障がいのない者が共に学ぶ仕組みを指します。そして、そこでは、障がいのある者が「**general education system（教育制度一般）**」から排除されないこと、および障がいのある児童が障がいに基づいて無償かつ義務的な初等教育または中等教育から排除されないこと、自己の生活する地域社会において、障がい者を包容し、質が高く、かつ無償の初等中等教育を甘受することができること、個人に必要な**合理的配慮**が提供されること等が必要とされています。

障害者権利条約成立とともに、世界各国にインクルーシブ教育は広まっていきました。日本においては、文部科学省が2012年に共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築を発表しました。その影響もあり、幼児期におけるインクルーシブ保育も推進されています。インクルーシブ保育とは、すべての子どもがクラスの一員になれる保育をいいます。

## 2. インクルーシブ保育と統合保育のちがい

### （1）統合保育とは

統合保育とは、障がいのある子どもとない子どもを一緒の場で保育することですが、健常児集団を中心とした保育プログラムで実施されるクラス活動に障がい児が参加を求められる保育の形態です（図1-1）。形式的には障がいのある子どもは健常児集団にいてだけで、放置されたり、不本意な活動を強制されたりするという問題が、しばしば生じています。障がい児が入園しても健常児

中心の保育プログラムは変わらず、障がい児はクラス活動で同じ活動をするために加配保育者に個別指導を受けながら、参加できるようになることを求められるのです。

統合保育の問題として、野本（2010）<sup>1)</sup>は、障がいのある子どもとない子どもと一緒に活動することができるように、他の子どもの活動に支障がないように支援や援助がなされている、障がいのある子どものできないことへの支援に関心がいつていると指摘しています。小山（2020）<sup>2)</sup>は、障がいのある子どもが健常児中心の活動に参加するために、ソーシャル・スキルなど応用行動分析の手法が使用されているが、これはクラス活動に参加することを重要視しているからではないかと指摘しています。障がいのある子どもが入園しても定型的な発達をしている子ども中心の保育プログラムや活動は変わることなく、障がいのある子どもへの個別的な配慮もないままに、一緒に保育することに重点が置かれることは、それでいいのでしょうか。別府・大井ら（2020）<sup>3)</sup>は、統合保育では、特別の配慮を必要とする幼児をクラス集団に参加させる際に、「みんなと一緒に」を優先するあまり、「クラスへの参加」を目標と設定することに陥りやすく、これが課題であることを指摘しています。また浜谷（2014）<sup>4)</sup>は、統合保育とインクルーシブ保育は原理的には異なると指摘します。その理由として、統合保育は多数派（しばしば健常児集団）と少数派（特別な支援が必要な子ども）とに分別し、多数派のための保育を少数派に強制する保育であるのに対して、インクルーシブ保育は、子ども一人ひとりの多様性と基本的人権を保障して、どの子どもも保育の活動に参加することを実現する保育であるためとしています。

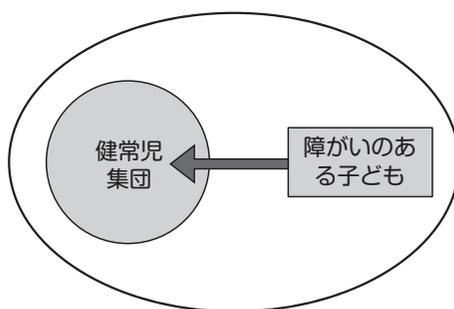


図1-1 統合保育のイメージ

## (2) インクルーシブ保育とは—保育のパラダイムシフトの必要性—

インクルーシブ保育では、障がいがある子どもを含む外国籍の子どもなどさまざまな子どもたちがいることを前提として、すべての子どもたちがクラスの一員となります（図1-2）。言い換えれば、**どの子どもも受け入れて排斥しない保育**です（小山，2022）<sup>5)</sup>。どんなに障がいや困難を抱えている子どもでも排除されることなく、かけがえない仲間や集団の中で一人ひとりがその子らしく輝き豊かに発達していることをめざす保育がインクルーシブ保育といえます（黒川，2016）<sup>6)</sup>。

保育者が保育プログラムや活動や遊びを考えて、子どもたちをその保育プログラムに沿って誘導していく**保育者主導保育から、子ども主体の保育に保育のパラダイムシフトが求められます**。インク

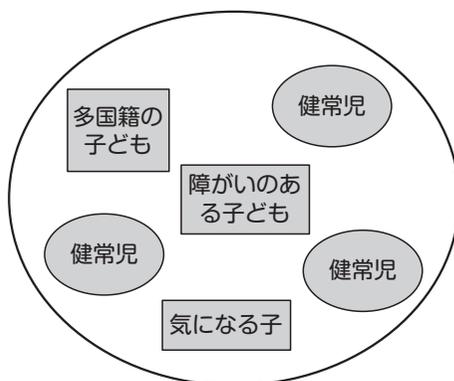


図1-2 インクルーシブ保育のイメージ  
すべての子どもがクラスの一員になれる保育  
子ども主体の保育

ルーシブ保育は、その子ども主体の保育を実現する保育なのです。

インクルーシブ保育は、障がいのある子どもや多様なニーズのある子どもがいることを前提とした保育です。障がいのあるなしで分けない、どんな子どもも排除しない、どんな子どもも一緒にいることを前提とした保育です。小山（2018）<sup>7)</sup>は、自閉スペクトラム症（ASD）のE児の幼稚園でのクラスの仲間関係を一年間観察し、E児の好きな遊び（こま回し）やコーナー遊びで一緒に仲間と関われる機会を定期的に設けたところ、クラスの仲間と相互交流することができるようになり、クラス活動に溶け込めるようになったと報告しています。インクルーシブ保育では、子どもが主体的に活動できることを保障し、遊ぶ相手も自分で選択し、子どものペースを尊重するため、どの子どもも自分も相手も大事にされる感覚が育ち、心身の発達が促進されるのです。

### （3）インクルーシブ保育の実践方法

インクルーシブ保育の実践に関して、簡単に箇条書きで以下にまとめました。それぞれの具体的な実践を本書では紹介していきます。

- ① **異年齢クラス**：3歳・4歳・5歳の異年齢クラス
  - ◆みんなちがってあたりまえ、柔軟な対応が可能な保育、ちがいを受け入れる感受性を育てる
- ② **コーナー活動**：ままごと、砂場遊び、製作活動、ごっこ遊び、電車遊び、動物とのふれあい、どろけい、サッカー、虫探し、絵本、こま回し、アスレチック、基地遊び
  - ◆どこで遊んでもいい、誰と遊んでもいい、一人で遊んでもいい
- ③ **一人ひとりの保育ニーズをとらえ支援計画をオーダーメイド（個別の支援計画）**
  - ◆子どものやりたい遊びや興味・関心を把握して共に関わる
- ④ **子ども同士の関係を育てることを大切に**
  - ◆好きな遊びを通じて仲間関係を育てる
- ⑤ **保育環境**
  - ◆動物（アヒル、ニワトリ、ネコ、ヤギ、カメ、サカナ）
  - ◆木や花や草などの植物を身近に感じる環境
  - ◆一人になりたいときに隠れる場所を設ける
- ⑥ **特別の配慮が必要な子どもや保護者支援を園全体で対応**
  - ◆障がいのある子どもなど特別の配慮が必要な子どもや保護者への対応や支援を大切に園全体で情報共有し、ていねいに保育者が対応
- ⑦ **保育者を孤立させない、問題を園全体で共有**
  - ◆クラスの中で気になる子どもについて保育者同士で情報を共有し、一貫性のあるていねいで柔軟な対応を行う
- ⑧ **専門機関等との連携**
  - ◆障がいのある子どもの療育機関や相談機関と連携し子どもの情報を共有しながら、支援計画を立てる
- ⑨ **子ども同士のトラブルがあったときは「チャンス」ととらえる**
  - ◆解決に向けて、安易に仲直りさせない。保育者の価値観を押しつけない、子ども同士がぶつかったり、意見が対立してこそ理解し合える機会をとらえる

## 引用文献

- 1) 野本茂夫 (2010) どの子にもうれしい保育の探求, 横浜市幼稚園協会
- 2) 小山望・勅使河原隆行・内城喜貴監修 (2020) これからの共生社会を考える—多様性を受容するインクルーシブな社会づくり—, 福村出版
- 3) 別府悦子・大井佳子他 (2020) 統合保育からインクルーシブ保育への展開のための実践的視点. 中部学院大学・中部学院大学短期大学部研究紀要 第21号, 1-12
- 4) 浜谷直人 (2014) インクルーシブ保育と子どもの参加を支援する巡回相談. 障害者問題研究 第42巻 第3号, 178-185, 全国障害者問題研究会
- 5) 小山望 (2022) インクルーシブ教育に関する研究—統合保育からインクルーシブ保育へ—. 田園調布学園大学教職課程年報 第5号, 13-22
- 6) 黒川久美 (2016) インクルーシブ保育と保育のありかた研究の覚書. 南九州大学人間発達研究 第6巻, 93-97
- 7) 小山望 (2018) インクルーシブ保育における園児の社会的相互作用と保育者の役割, 福村出版

## 参考文献

- ・小山望・太田俊己・加藤和成・河合高鋭編 (2013) インクルーシブ保育っていいね, 福村出版